

建設常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

平成29年5月11日（木）～12日（金）

2 視察項目（視察都市）

- ・大宮駅東口の再開発（大宮東口プロジェクト）について
（埼玉県さいたま市）
- ・水と緑のネットワーク形成プロジェクトについて（埼玉県戸田市）

3 参加委員

委員長：上田光夫、副委員長：青木順子

委員：朝田 充、萩原 佳、坂口康博、中内清孝

4 調査概要

さいたま市では、平成22年に大宮駅周辺地域戦略ビジョンを策定し、おもてなし歩行エリアの形成、おもてなしひろばの創出、複合的事業促進によるおもてなしまち再生、公共施設再編による連鎖型まちづくりを優先的に進めている。また、さまざまな主体が広く連携しながら、アーバンデザインセンター大宮やOM TERRACEを設置し、人の流れを生み出すおもてなし空間の創出を目的としたプロジェクトも進めており、都市機能の更新と土地の合理的な活用を目指した民間と行政の協働のまちづくりを進めている。

戸田市では都市化が進み、平成9年と比較しても、約6.3ヘクタールの緑が減少している。そこで戸田市緑の基本計画を策定し、地域に点在する緑地や水辺を繋ぎ、自然との共生を目指す水と緑のネットワーク形成プロジェクトを進めている。ネットワーク形成を進めるにあたっては、市民、事業者、市の3者の役割を意識し、協力体制を築き、推進を図っている。この取り組みの結果、生物多様性に優れた自治体ランキングで1位に選ばれるなど大きな成果を上げている。



5 委員長所感

さいたま市の取り組みにおいて興味深かったのは、物理的な駅前の広場を大切にしているという点である。本市の阪急、JR両駅前の更新についても、今回の視察で学んだ「人のための空間」というコンセプトを大切にしながら、高成長を前提とした時代錯誤的な駅前計画にならないよう提案していきたい。

戸田市の取り組みにおいて興味深かったのは、戸田ヶ原自然再生事業の取り組みで、当該環境に呼び戻したいシンボル種を定めている点である。本市の元茨木緑地の活用を考える際、保存動植物の種を設定すれば、市民活動への波及効果なども見込めると考える。